

2022

SCIENCE1

教室

2022年10月7日（金）15：45～17：15 理科D

「海洋プラスチック汚染の現状と課題」

～ 何が問題なのか？ ～

道田 豊 氏（東京大学大気海洋研究所教授）

内容：プラスチックを含む海のごみを運ぶ海流の基礎的な知識を導入に、国際的にも大きな課題になっている「海洋プラスチック汚染」とは何が問題なのか、わかりやすくお話しします。
これ以上海洋プラスチック汚染を進行させないために何ができるか、考えるきっかけにして頂ければと思います。

道田氏のプロフィール

1958年広島市生まれ。東京大学理学部地球物理学科卒、理学博士（1999年）。

大学院修士課程修了後、1984年から海上保安庁に16年勤務した後、2000年に東京大学海洋研究所助教授、2007年に同教授。専門は、海の表面付近の流れの構造と変動。1986-87年、第28次日本南極地域観測隊員。現在、日本ユネスコ国内委員会委員、日本財団-東京大学「海洋プラスチックごみ対策プロジェクト」代表、海洋調査技術学会会長、漂着物学会会長など。

世界に広がるマイクロプラスチック問題

マイクロプラスチックは5mm以下のプラスチック粒子のことです。プラスチックごみが波や紫外線的作用により小さくなったものや、歯磨きペーストなどに含まれるマイクロビーズ（微小なプラスチック）が主です。

マイクロプラスチックは自然界で分解されにくいいため、残り続け、量が増えていく傾向にあります。

マイクロプラスチックは世界中の海中に滞留し、食物連鎖を通じて、人間を含む多くの動物に取り込まれることが問題視されています。また、イルカやアザラシなどの海洋生物がプラスチックごみそのものを餌と間違えて食べてしまい、死につながる被害が起こることも問題となっています。マイクロプラスチック問題は、海洋に放出されたプラスチックごみ自体の問題とまとめて「海洋プラスチック問題」として扱われることもしばしばあります。